

試験運用と展望

試験運用 Trial Operation

当プロジェクトの現状では大学の工房で活動しており、その利用規則上、FabLabを一般の人々に開放することは難しい。しかし、将来的に円滑な運営を実現するために、運営体制の構築や利用者への宣伝活動は必須である。そこで我々は対象を学生・教職員に限定し、FabLabを試験的に運用することによって、FabLab Hakodate発足に備えている。これが「FabLab Hakodateβ」である。

活動内容 Activities

FabLab Hakodateβ の運用

10月半ばから毎週水/金曜日の放課後(18:00 ~ 20:00)に3回工房にて学内限定ではこだて未来大学3階工房にFabLab Hakodateβの運用を行った。利用方法は、事前予約制とすることで、施設利用願いの提出に対応した。また機材利用は無料だが、FabLabの精神に基づき原則ユーザー製作物のデータをシェアする方針とした。



広報活動

FabLabの活動を広く知ってもらうために、SNS等で積極的な広報活動を開始した。そこでは、活動内容や作品紹介、イベント告知などを発信した。現在twitterのフォロワーは112人、Facebookでは「いいね!」、「コメント」を190件、総閲覧数は3920回である。



ワークショップの開催

10/31にHalloweenをテーマとしたワークショップを開催した。昼休みにはモノづくりの関心が薄い人を対象に自作のタトゥーシールと紙つけまつげの仮装グッズを配布した。放課後はFabLabを体験してもらうため、illustratorとペーパーカッターを使ったラテアートのワークショップを行った。



今後の展望 Future prospects

我々はFabLab Hakodateを創出するために様々な準備を進めてきた。FabLab憲章に照らせば、我々が今後のすべきことは、担当教員と連携して市民への開放に向けたルール作りを進める、積極的に他のFabLabと連携することである。これが達成された時、FabLab Hakodateとして世界のFabLabの一つとして認められるであろう。それを実現するためにはプロジェクト終了後になんらかの形態でFabLab Hakodateβを残す必要がある。考えられる活動形態としては、プロジェクトとして継続すること、サークルを作ること、研究室が運営すること等が想定できる。このいずれの場合においても、我々の学んできた知識/技術/ノウハウを伝達することで、将来の本格運営につなげていきたい。

